

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

コウボクとは・・・

ホオノキ : *Magnolia obovata* Thunberg (モクレン科) の樹皮のことです。このホオノキは種が様々あり、初めに述べたこの種は日本産ですが、これとは違う学名の中国産も同じコウボクとして扱われます。(★後述あり)

日本では、長野、岐阜、富山、香川、鹿児島各県および北

今月のピックアップ

こうぼく
厚朴

海道などで野生品を採取することができます。しかし、近年は価格等の理由から中国産を使用することの方が多なのが現状です。

【性味】 苦・辛、温

【薬効】 理気燥湿・寛中除満・平喘

コウボクの含有成分と薬能・・・

精油成分を1%ほど、セスキテルペノイドとして含んでいますが、その中でも、β-オイデスマール(蒼朮(ソウジュツ)にも含まれる成分)を主として、カリオフィレンエポキシドなどを含んでいます。

薬理作用として、フェニルプロパノイドであるマグノロールやホノキオールに鎮静、運動抑制、中枢性筋弛緩、脊髄反射抑制などの持続性の中枢抑制作用、抗胃潰瘍、胃液分泌抑制作用等が認められています。

薬能としては、消化管内の水分の吸収を促進するとともに、胃腸の蠕動を調整して脾の運化を強め、止瀉、止嘔にも働きます。



コウボクの名前と活用・・・

ホオノキは背が高くなる木だが、幹から出る枝はまばらでいかにもその様子が素朴(まじめで飾り気がない)な状態を連想させるものであることと、樹皮が厚いので『コウボク(厚朴)』という名前が付けられたといわれています。



現在第十八改正まで発行されている日本薬局方に記載されている生薬の学名は、植物学上でのそれよりも変更することは少ないのですが、この**ホオノキ**は、それまで『**ホウノキ**』と記載されていたものが、第十六改正以降『**ホオノキ**』に変更になりました。

ホオノキはその材質が柔らかく、加工が容易で反りによる狂いが少ないため、仕上がりがきれいなので様々な実用品に重宝されています。かつては、刀の鞘に、現在では、下駄の歯（朴歯）、家具、建具、木版画の版木、ピアノの鍵盤、将棋の駒などその用途は広く、また、朴炭（ほおずみ：ホオノキを炭にしたもの）は金銀などの研磨用、銅の黒焦げ落としなどにも利用されています。



コウボク

いろいろ...

中国産の**コウボク**の中には、生の樹皮を少し煮て湿った日陰に保管しておくことで、精油がにじみ出てきて紫褐色から茶褐色に変化します。このあとに蒸して柔らかくして筒状に巻いて成形乾燥します。この**コウボク**は、表面が紫色で、しっかりと油で浸潤していることから『紫油厚朴』と呼ばれます。

この中国産の**コウボク**ですが、第十二改正日本薬局方（平成3年）までは日本産の和厚朴のみを規定していましたが、第十三改正日本薬局方（平成8年）より唐厚朴として基原植物として含められました。（★）

中国種にもいろいろあるのですが、ここで、カラホオと凹葉厚朴の葉を比較してみましょう。葉が特徴的です。



コウボクを含む方剤...

いれいとう

胃苓湯（食あたり、暑気あたり、冷え腹、急性胃腸炎、腹痛）

はんげこうぼくとう

半夏厚朴湯（気分がふさいで咽喉・食道部に異物感のある不安神経症、神経性胃炎）

へいいさん

平胃散（急性・慢性胃カタル、胃アトニー、消化不良、食欲不振）

ましにんがん

麻子仁丸（比較的体力のない人の便秘、常習便秘、便秘による痔核）